

サステナビリティ経営 サステナビリティ方針・ビジョン / サステナビリティの推進プロセス

● サステナビリティ方針・ビジョン

NXグループは、これまで進めてきたサステナビリティ経営をより深化させ、実効性の高い施策をグループ一丸となって遂行するために、当社グループのサステナビリティへの姿勢や創出価値を明らかにしたサステナビリティ方針およびビジョンを策定しています。本方針およびビジョンに基づき、企業理念である“社会発展の原動力であり、物流から新たな価値を創り、信頼される存在である”の体現と、持続的な成長・企業価値向上を両立し、価値創出を促進していくことにより、サステナビリティ活動においても、グローバル市場で存在感を持つグループとなるべく、取組みを進めています。

サステナビリティ方針

- NXグループは、従業員、ビジネスパートナー、お客様、地域社会といったステークホルダーと共創し、実り豊かな未来を目指すことで、持続可能な社会の実現を目指していきます。
- NXグループは、自社とお客様の環境負荷の低減に貢献する事業に取り組むことで、カーボンニュートラル社会の実現や、地球環境の保全に貢献していきます。
- NXグループは、人と人、ビジネスとビジネスをグローバルに繋ぎ、社会課題の解決に寄与するソリューションを提供することで、社会から必要とされる存在として、持続的な成長を追求していきます。

サステナビリティビジョン

企業理念	私たちの使命 それは社会発展の原動力であること 私たちの挑戦 それは物流から新たな価値を創ること 私たちの誇り それは信頼される存在であること		
サステナビリティビジョン	事業を通じて世界の人々のより良い暮らしと持続可能な社会の発展を支える		
	社会的価値 【安心・安定の提供 / 働く人の幸せ】	環境的価値 【地球環境の保全】	経済的価値 【NXの持続的成長】
重要課題 (マテリアリティ)	イノベーションによる新たな価値の創造		
	事業	サステナブル・ソリューションの開発・強化	グローバル・サプライチェーンの強靱化
	事業基盤	イノベーションを生む人財力の向上	人権の尊重と責任ある企業活動の実現
安全・コンプライアンス・品質			

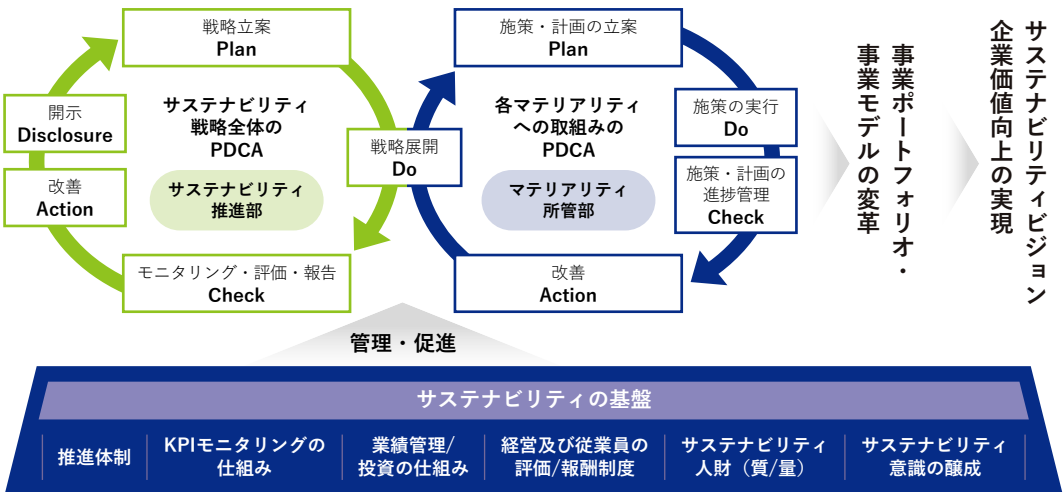
● サステナビリティの推進プロセス

NXグループでは、各重要課題（マテリアリティ）の取組み状況や社会情勢などを鑑みながら、サステナビリティ推進部がサステナビリティに関する戦略の立案、モニタリング・評価・報告、改善を行い、サステナビリティ戦略をアップデートしています。

サステナビリティに関する取組みの実行は各重要課題（マテリアリティ）の担当部署が行い、グループ各社の事業にサステナビリティ戦略を落とし込みながら、事業ポートフォリオ・事業モデルの変革を推進しています。

上記プロセスの土台となるサステナビリティの基盤強化に向けて、当社グループではサステナビリティ推進委員会、サステナビリティ協議会をマイルストーンとしたKPIのモニタリングを行っています。また、サステナビリティ経営推進を加速するため、役員報酬制度においては、連結売上収益などの業績指標に加えて、ESG関連の非財務情報も指標に含めており、2024年度実績からNIPPON EXPRESSホールディングス株式会社および日本通運株式会社に先行して運用し、2025年度実績からはグループ全体での運用を予定しています。さらに、社内浸透の取組みとして、職位別に2024年度の浸透目標を定め、研修などを実施しています。

サステナビリティの推進プロセス



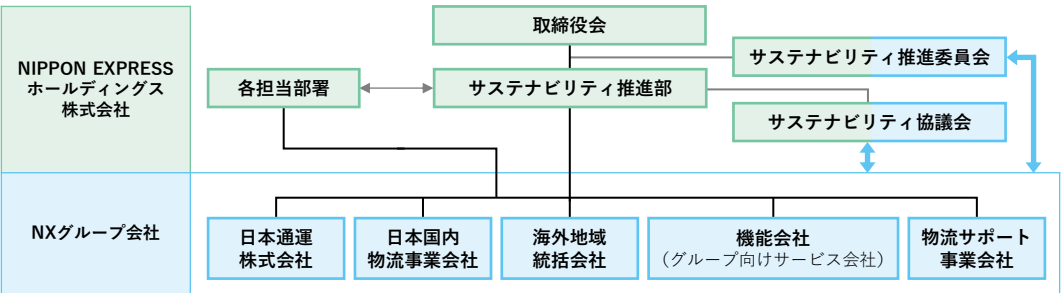
サステナビリティ経営 サステナビリティ推進体制 / 社内浸透の取組み

● サステナビリティ推進体制

NXグループは、NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社サステナビリティ推進部を中心にサステナビリティ経営に取り組んでいます。

また、当社グループのサステナビリティ推進を担うサステナビリティ推進委員会は、参加者をこれまでのNIPPON EXPRESSホールディングス株式会社の執行役員から、グループ会社のサステナビリティ担当役員まで拡大し、グループ全体で気候変動問題を含むサステナビリティ全般の取組みのさらなる加速および実効性向上を図っています。

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ推進委員会

1. 委員会の機能・目的	- サステナビリティ経営に関わる経営の基本方針、事業活動等の方針・戦略に関する企画・立案・提言 - サステナビリティ経営に関わる情報、進捗状況等の取締役会および経営・執行役員会議への報告
2. 委員	- 委員長：NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社社長 - 副委員長：当社サステナビリティ推進部を所管する本部長 - 委員：当社執行役員およびグループ会社のサステナビリティを担当する役員 - 事務局：当社サステナビリティ推進部
3. 開催頻度	原則年2回 ※重要事項がある場合は、臨時開催を行う。

サステナビリティ協議会

1. 協議会の機能・目的	- サステナビリティ推進委員会を踏まえたサステナビリティ経営戦略の推進状況の共有、指示事項の確認 - 次回サステナビリティ推進委員会に向けた、サステナビリティ経営戦略を進める上での課題等の議論ならびに報告や提言内容の整理・確認
2. 参加者	- 事務局：NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社サステナビリティ推進部 - 参加者：当社各部署とNXグループ会社のサステナビリティ推進担当
3. 開催頻度	原則年2回 ※重要事項がある場合は、臨時開催を行う。

サステナビリティ推進委員会の実施実績

回	開催時期	主な議題
第5回	2024年3月	- サステナビリティ経営の推進 - 人権尊重の取組み - 非財務情報の開示対応（CSRD）
第6回	2024年9月	- サステナビリティ経営の推進 - 重要課題（マテリアリティ）の推進 - 人権尊重の取組み - 気候変動への対応 - 非財務情報の開示対応（CSRD）

● 社内浸透の取組み

NXグループは、サステナビリティ活動の推進に当たり、当社グループの従業員一人ひとりが日々の事業活動の中で自律的にサステナビリティを実践し、組織文化として定着することを目指し、サステナビリティ全般に係る理解浸透・行動変容を図るための教育・浸透を実施しています。

サステナビリティ推進に関する研修の実施

階層ごとに求められる知識・役割が異なることから、2024年度はサステナビリティ推進に関する研修を階層別に実施しました。研修後にはテスト・アンケートを実施し、結果を踏まえた改善のサイクルを回しています。

対象者	開催時期	研修形式	研修内容	受講者数
NXHD役員・主要グループ会社経営者	2024年7月	外部有識者によるセミナー	サステナビリティ経営を通じた企業価値向上（先進企業の事例から）	71人
NXグループ全課長職以上	2024年12月	eラーニング	自組織でのサステナビリティ経営推進に向けた最新動向、取組みの意義の理解と実践	国内：6,644人 海外：1,652人
NXグループ全従業員	2024年6月	eラーニング	サステナビリティ経営の深度化に向けた意義の理解と実践	国内：31,202人 海外：8,688人
NXグループ新社員（国内）	2024年4月	対面講義	NXグループのサステナビリティの取組みと自身の業務との関連性の理解	940人
	2024年4月	eラーニング	NXグループのサステナビリティの取組み理解と実践に向けた具体的なアクション	940人

サステナビリティ経営 社内浸透の取組み / ILO（国際労働機関）の人権専門家との対話

「NXグループ サステナビリティハンドブック～豊かな未来を創る私たちの約束～」の発刊

NXグループでは、2024年12月に当社グループの目指す姿や取組みをコンパクトにまとめた、サステナビリティハンドブックを新たに発刊しました。幅広いステークホルダーを対象に、イラストを用いて親しみやすく、分かりやすい内容で作成しました。当社グループのサステナビリティの取組みを理解することで従業員のエンゲージメント向上や、取引先への営業活動での活用を発刊の狙いとしています。



内容（全16ページ）

- はじめに：私たちの約束
- 社会とNXグループ：私たちのあゆみ
- 理念とビジョン：私たちの目指す未来
- 重要課題（マテリアリティ）：共に挑む約束

ポイント

協業先
ご担当者様の声、
現場の従業員の
声を掲載

詳細はNXグループサステナビリティハンドブックをご覧ください。

NXグループサステナビリティハンドブック

● ハンドブック発刊イベントの開催

発刊がゴールではなく、手に取り実際に読んでもらうことが重要です。そのため、普及や啓発を目的にハンドブック発刊イベントをNXグループ本社ビルにて開催し、約200人の従業員が参加しました。ハンドブックの内容に関するクイズや重要課題（マテリアリティ）に関する簡単なワークを実施し、内容の理解と自分事化に努めました。



「NXグループ サステナビリティトピックス」のリニューアル

当社WEBサイト、サステナビリティページにある、サステナビリティトピックスをリニューアルしました。NXグループ各社で推進するサステナビリティの取組みを「環境的価値・社会的価値・経済的価値・地域社会の発展

への貢献」の4つでラベリングすることで、取組みとサステナビリティビジョンとの紐づきを明確にしています。トピックスは四半期に一度で都度更新し、グループ全体でのサステナビリティ経営の推進に生かしていきます。詳細は、当社WEBサイトをご覧ください。

NXのサステナビリティ

● ILO（国際労働機関）の人権専門家との対話

対話の概要

- ILO（国際労働機関）駐日事務所プログラムオフィサー田中竜介氏をお招きし、NXにおける人権尊重への取組みについて説明を行い、国際基準、業界や他社動向等を踏まえた取組み推進における助言をいただきました。
- 人権尊重への取組みの推進には経営層の理解とコミットメントが不可欠であるため、NXグループ各社の経営層向けに人権に関する国際的な動向や企業の責任についての理解を深めるセミナーを開催しました。（21社125人が参加）

対話を通じた学びと今後の取組み

- 2024年より国内外のNXグループ101社を対象に実施している人権リスク評価アンケートの結果も踏まえ、物流業界全体において労働安全衛生や女性差別などの人権リスクの低減が求められることを改めて認識しました。
- 今後の取組みとして、自社内の人権リスクの低減に加え、サプライチェーン上の人権リスクへの対応の必要性についても議論し、取組み方法への理解を深めました。今後、取引先との協力関係を構築し、サプライチェーン全体での人権尊重への取組みを推進していきます。
- 人権尊重への取組みにおいて、その特性上、外部有識者との対話による取組みの改善は重要であるため、今後も外部有識者との対話を継続していきます。



サステナビリティ経営 ステークホルダーエンゲージメント

● ステークホルダーエンゲージメント

NXグループは、サステナビリティ経営を通じて社会課題を解決することで豊かな未来を創出し、企業価値を向上していくためには、幅広いステークホルダーの皆さまと双方向のコミュニケーションを持つことが重要と考えています。

ステークホルダー	方針・取組み内容	主な対話方法（頻度・実績）	
株主・投資家	株主・投資家の皆様との建設的な対話が、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上において、重要であると認識し、その建設的な対話を促進するための施策や体制整備に取り組んでいます。経営企画部担当役員が統括するIR活動を通じ、当社グループの経営戦略や経営施策を明解に伝え、理解を得よう努めています。株主・投資家の皆様からの意見については、半期に一度取締役会へ報告し、社外役員を含む取締役会での協議のうえ、経営に反映するように努めています。	【日本国内機関投資家向け】 ● 機関投資家との個別ミーティング（4件） ・ 代表取締役によるミーティング（4件） ・ IR担当役員によるミーティング（7件） ・ IR担当者によるミーティング（88件） ● 社長をスピーカーとするスモールミーティング（1回） ● 社長およびテーマに応じた担当役員等をスピーカーとするIR Day（1回） ● 社外取締役をメインスピーカーとするスモールミーティング（1回） ● IR担当者による証券アナリスト等の取材対応（24件）	【海外機関投資家向け】 ● 海外投資家との面談 ・ 代表取締役によるミーティング（13件） ・ IR担当役員によるミーティング（36件） ・ IR担当者によるミーティング（56件） ● 証券会社主催のコンファレンス参加（1件） 【個人投資家向け】 ● 説明会（1回）
お客様	法令等の順守に加え、お客様からのニーズを把握し、環境・社会に配慮した高品質なサービスの提供を行います。また、必要な情報の提供や相談受付などの相互コミュニケーションによる要望の収集によりサービス向上・改善に努めます。	● 展示会・説明会・セミナー（随時） ・ 日本通運株式会社、「アジア・シームレス物流フォーラム2024」、「国際物流総合展2024」に出展	● 電話、WEBでの相談受付（日常的） ・ お客様アンケート（随時） 等
従業員	従業員が幸せにモチベーション高く働くことが、お客様、株主、社会に対しての価値創出につながると考え、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進や人材育成など、多様な人材が能力を発揮し活躍できる環境の整備、施策の実行に努めます。	● タウンホールミーティング ・ NXグループの方向性、ビジョン、経営トップの考え方を従業員一人ひとりに正確に伝えるために、経営トップと従業員が直接対話できる「タウンホールミーティング」を実施している ・ 社長、副社長をはじめ経営幹部が各職場に赴き、直接対面で会社の方向性を示し、従業員の考えを聴く機会を設けている ・ 2024年度はタウンホールミーティングを45回実施し、従業員518人がこれに参加している	● 内部通報制度 ・ 「NXスピークアップ」、「NXグローバルスピークアップ」 ● 個人面談（随時） ● 社内アンケート（随時） ● コンプライアンス意識調査（定期的） ● 社内報（月1回） 等 ● NXエンゲージメントサーベイ（年1回） ● 社内公募制度（ボスカリ）の実施（年120ポスト以上）
関係・協力会社	関係・協力会社と共に公正・公平な取引を行い、法令等の順守に加え、安全・人権・環境等の課題に対しサプライチェーン全体で対処します。	● 会議・説明会（随時） 等 ・ 物流現場の自動化・省力化・効率化を目指して、各種展示会への参加・ベンダーからの情報収集を実施。得られた情報・知見を社内共有し、物流現場の効率化につなげている	● パートナリシップ安全協議会（年1回）
地域社会	NXグループが地域社会に対して与える影響を理解し、事業活動・社会貢献活動を通じて、地域の持続的な発展・振興に寄与します。	● 講演・教育の場への講師派遣（随時） ● 社会貢献活動（随時） ・ 森林育成活動（年2回） 等	
行政機関等	各国の行政機関や自治体等の各種法令の順守に加え、行政機関や自治体等と連携した事業の検討・推進により産業振興に貢献します。	● 委員会・協議会・会議（随時） 等 ・ 経済産業省主催のGXリーグ（カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を果敢に行い、国際ビジネスで勝てる企業群がGXを牽引する枠組み）に参画	● 国際労働機関（ILO）の人権の専門家との対話 ^{※1} ・ NXグループにおける人権取組み全般について意見交換 ・ 経営層への人権に係る国際動向・企業における責任に係る理解向上セミナーの開催

※1 対話の概要はP.10の「ILO（国際労働機関）の人権専門家との対話」に記載しております

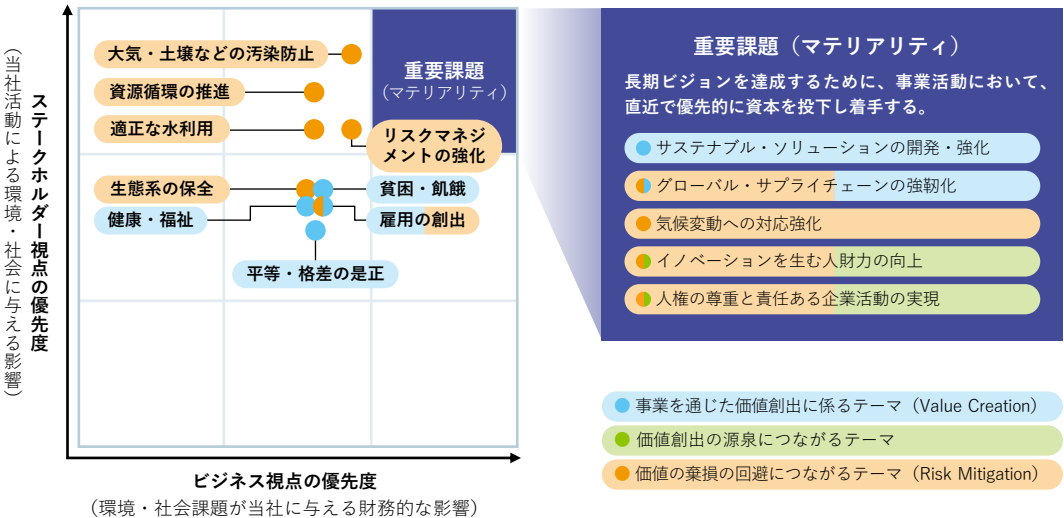
サステナビリティ経営 重要課題（マテリアリティ）の特定・見直しプロセス / 重要課題（マテリアリティ）

● 重要課題（マテリアリティ）の特定・見直しプロセス

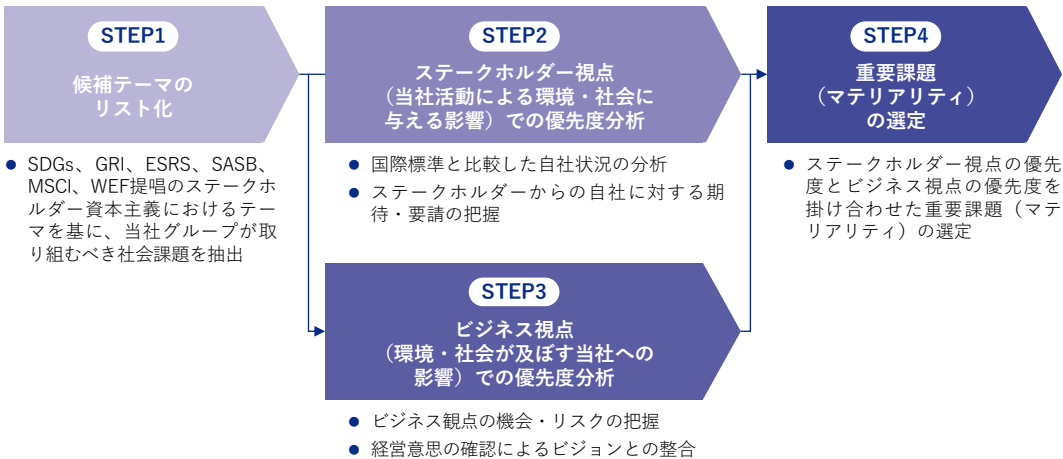
NXグループでは、欧州の開示規制に対応する中でダブル・マテリアリティの考え方にのっとり、環境・社会課題が当社に与える財務的な影響、当社活動による環境・社会に与える影響等の相互影響を考慮しマテリアリティを特定しました。具体的には、右図4つのステップを経て重要課題（マテリアリティ）を特定しています。STEP1では主要なサステナビリティフレームワークから候補テーマをリスト化し、STEP2,3では国際標準や規制動向、主要なステークホルダーからのフィードバック、外部有識者や社内関係者へのヒアリングを行い、当社グループが取り組むべき課題を抽出しています。特定した重要課題（マテリアリティ）については、経営計画のサイクル、あるいは、規制や事業環境の変化を定期的に確認する中で再評価を行っており、今後も、国際的な潮流を踏まえて、当社グループが取り組むべき課題の見直しを行っていきます。

● 重要課題（マテリアリティ）

重要課題（マテリアリティ）マトリクス



重要課題（マテリアリティ）の特定ステップ※1



※1 事業関連のリスク対応については、最新の有価証券報告書を参照。事業環境分析については統合報告書P.14を参照。

有価証券報告書第3期

統合報告書

当サステナビリティレポートでの記載箇所

	主要なサステナビリティ課題	当レポートでの記載箇所
環境的価値	・気候変動への対応強化 ・サステナブル・ソリューションの開発・強化 ・資源循環の推進	・大気・土壌などの汚染防止 ・生態系の保全 ・適正な水利用 P.20-P.30
社会的価値	・人権の尊重と責任ある企業活動の実現 ・平等・格差の是正 ・イノベーションを生む人財力の向上	・健康・福祉 ・グローバル・サプライチェーンの強靱化 P.31-P.51
経済的価値	・サステナブル・ソリューションの開発・強化	・グローバル・サプライチェーンの強靱化 P.52-P.53
ガバナンス	・人権の尊重と責任ある企業活動の実現 ・リスクマネジメントの強化	P.54-P.64